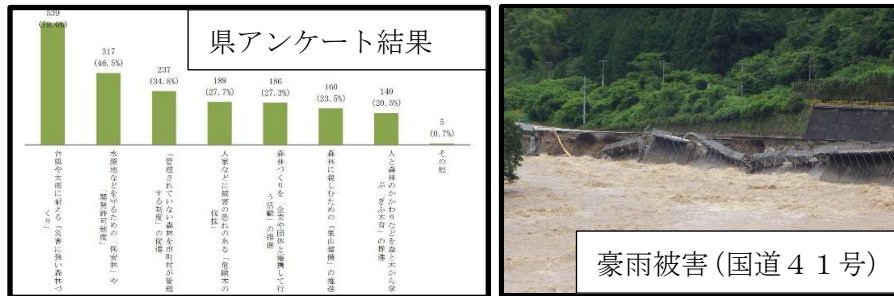


8 岐阜県における『多様な森林づくり』への取り組みについて

岐阜森林管理署 一般職員 ○上戸 公介
 総括森林整備官 土田 愉貴宏

1. 課題を取り上げた背景

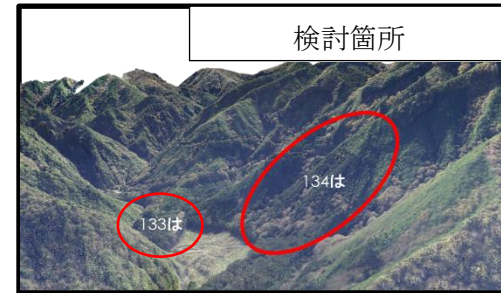
岐阜森林管理署は、岐阜県内 10 市町村に所在する約 4 万ヘクタールの国有林を管轄していますが、そのほとんどが河川の上流域や県境周辺に位置しています。そのため、水源のかん養や国土保全といった公益的機能を発揮することが強く求められています。また、岐阜県が実施した県政モニターへのアンケート結果や下呂市で平成 30 年・令和 2 年と相次いで発生した豪雨災害等の影響から、地域住民の災害に強い森林づくりへの関心が非常に高くなっています。このため、当署は中部局が行う多様な森林“見える化”プロジェクトの対象署でもあることから、国有林の公益的機能の発揮や地域住民の要望に応えるためにも「災害に強い森林づくり」を重要なテーマとして掲げ『多様な森林づくり』を進めることとしました。



2. 取組の経過

岐阜県では、まず「災害に強い森林づくり」を、①山崩れを防ぐために沢沿い・尾根沿いは保残する、②広葉樹を活かした施業を実施する、③下層植生の侵入を促すために適度な間伐を実施する、④裸地化を防ぐ

ために極力皆伐を控える、⑤急傾斜地での車輛系集材を行わない、と定義しました。これらを前提に、今回は多様な森林“見える化”プロジェクトの設定箇所内の落合国有林 133 は・134 は林小班を例に挙げ、主伐を行う場合と間伐を行う場合について検討しました。



3. 課題について

多様な森林づくりを進めていくに当たり検討した結果、保安林指定施業要件の見直しの必要性や、架線技術の継承が進まないことによる架線技術者不足、国有林野事業の採算性向上のためのコスト削減などの課題があることがわかりました。これらの課題については、多様な森林づくりと平行して解決に向けて取り組んでいきたいと考えています。特にコスト面については、今後獣害対策や保育などについてコスト比較をしながら当署の検討課題としていきたいと考えています。

4. 考察

『多様な森林づくり』は、それぞれの現地に合った多様な施業を行うことにより健全な森林を造成し、国有林のもつ公益的機能を最大限に発揮させることであると考えます。その中で、当署では『災害に強い森林づくり』をキーワードとして、今後も地域住民の要望に応えられる山づくりに努めていきたいと考えています。